

誰もが抱える悩みを。パッと解決！

福田貴一先生の 福が来るアドバイス



早稲田アカデミー
千葉ブロック統括責任者
福田 貴一

何のために中学受験をするの??

中学受験における成功とは？

子どもたちに中学受験の成功とは何かと聞くと、ほとんどの子どもが「合格」と答え、失敗は「不合格」と答えます。本当にそうでしょうか。

私は、第一志望校の受験日当日、胸を張ってその学校の門をくぐる瞬間、これを中学受験の成功だと考えています。もちろん、その時点では合格するのか、残念な結果に終わってしまうのかはわかりません。しかし、その子どもが自信を持って第二志望校の門をくぐった瞬間こそが、中学受験に向けての努力がムダにならなかつた証だと強引に思います。

確かに第二志望校に合格できれば、これほどいいことはないありません。しかし、まだ12歳です。どんな難関中学校に合格したとしても、残りの人生がバラ色だという保証はありません。逆に、第一志望校に不合格になったからといって、その後の人生が駄目になってしまう……これも間違いです。中学受験を終えたあとに続く人生をどう過ごすのか、これが一番大切です。そう考えるべく、「第一志望校を胸を張って受験できる」「これこそが中学受験の成功だと理解できるのではないでしょうか。

いよいよ2012年の中学受験まで、カウントダウンが始まりました。中学受験にチャレンジする限り、第一の目標は第一志望校に合格することです。しかし、中学受験に合格できたからといって、その後の人生がバラ色になると決まっているわけではありません。

では、中学受験は何のためにするのでしょうか。中学受験をするために得られるものについて考えてみましょう。

大学生になって感じる中学受験のメリット

「東大をはじめとする難関大学に通う学生へのアンケート」によると、中学受験をして良かったと回答した割合は9割にのぼりました。つまり、中学受験を経験し、そのまま努力を継続して希望する大学に進めた場合、9割の大学生が「中学受験をして良かった」と思っているということです。

そして、良かった理由として、①その後の勉強がスムーズになった、②中学受験のときに身に付けた学習方法が今でも役に立っている、③中高貴校だと部活に打ち込める、④自分にあった学校(校風)を選べた、とあります。

確かに公立中学校の1年生と私立中学校の1年生が全国学力テストのような共通テストを受けた場合、思考力が必要な問題では圧倒的に私立中学校の1年生の方が好成绩を収めます。この結果を聞くとも、「やはり私立中学校に入れないと……」と思われるかもしれませんが、入学してすぐに思考力が高まるわけではありません。つまり、この差は「中学生になるまでにどれだけのことをやっていたか」によるのです。

そして、中学受験に至るまでの険しい道のりを乗り越えたときに初めて得られるのが、「小学生時代に学んだことなかで必要なことを使って考えていく方法」、いわゆる思考方法です。つまり、この思考方法を教えるのが中学受験塾なのです。

早稲田アカデミーの創業社長、須野田誠の著書「わが子を救う教育サバイバル術」にこのような記載があります。「将来、親がいなくなっても自分で自分の人生を考え、人生に問題が発生すれば自分で解く能力を身に付けさせるべきであり、それがわが子に残してあげられる最大の財産なのです。そして、これが財産であることに親は自信をもつべきでしょう。お金や高価な宝石、ブランドの時計をわが子に残してやったとしても、もし盗まれてしまえばそれで終わりです。しかし、身に付けた判断力や知恵は何人といえども使いついて盗みとることほできないの吧」

この財産は、将来、合格した第一志望の中学校で得られるものかもしれません。しかし、少なくともそこにたどり着く過程、中学受験に向けた勉強を通じて得た思考方法は、判断力、生きる知恵として、将来必ずや役に立つはずです。ぜひ、子どもたちの将来を見据えつつ、最後まで諦めずがんばりましょう。

ブログ **四つ葉Café** 公開中!

早稲田アカデミーホームページ 四つ葉 caféにて公開
詳細はホームページをご確認ください。 検索



だからこそ、大学生になっても「中学受験のために培った力や学習方法が役に立った」と思えるのです。

中学受験を後悔させないために 日々、声掛けを忘れない

同じアンケートで良くなかつた理由を尋ねた結果、①小学生の遊びたい時期に自由が少なかつた、②中学受験は自分の意思ではなく親の意志だつたから、③中高貴校だと高校進学の際に進路を真剣に考えなくなる、という意見が挙がりました。

中学受験をすれば、小学校での自由が少なくなりませんが、中学受験をせずに高校受験を選ぶは、中学生のときに自由がなくなります。また、中学受験をしても勉強にメリハリをつければ自由な時間は取れるので、

これは本人次第かもしれませんが、③については、中高貴校を選ぶ時点で、その先にある大学、社会のことも含めて考えておくことをおすすめします。

ただ、「親の意思だつた」については、保護者の接し方次第で変えることができます。そのコツは、節目ごとに「受験を止めていいよ」と声をかけることです。たとえば、お正月にお年玉を渡すとき、「今年はお年生になるんだから一生懸命勉強しようね。でも、もし本当に受験がイヤで塾がイヤだつたら止めてもいいんだよ」と声をかけてみてください。

そして、小学校5年生の秋頃、もう一度親子で中学受験について話し合ってください。中学受験を目指す子どもが多く、5年生の1学期から夏休みにかけて大きな山場を迎え、それを乗り越えた秋に中だるみがあります。そこに反抗期が重なれば、「まだ1年も勉強しなければならぬ。なんで？」と受験勉強が嫌になる場合が多々あります。そんな時期だからこそ、「なぜ中学受験という道を選んだのか」「本当に受験したいと思うているのか」「どんな学校に行きたいのか(行かせたいのか)」「そんな話をじっくりと親子でしてみてください。そのとき子どもが自分から「塾に行きたい」「中学受験がしたい」「○○中学校に行きたい」と言えば、中学受験は親の意志ではなく、子ども本人の意思になります。

険しい道りが育む将来の糧

中学受験に向けた学習を進めていくと、その途中には、とても険しい道のりが待っています。しかし、子どもたちがこの最終的な結果は別として、目標のために真剣に努力をしていく過程こそが、将来に向け